



土屋貞身さん（右）の戦争体験の授業でメモを取る東部高の生徒

東御の宅幼老所利用の土屋さん

東部高で戦争体験語る

東御市田中の宅幼老所「岩井屋」を利用している土屋貞身さん(89)＝小諸市、農業＝が六日、東部高校で一年生約四十人に戦争体験を語る初めての授業をした。岩井屋はしの鉄道田中駅近くにあり、学校帰りに立ち寄る生徒もいるなどかわりが深く、世代を超えた交流が実現した。



土屋さんは昭和十三(一九三八)年から十五年にかけて、日中戦争下の中国・杭州周辺に出兵した。地元住民との銃撃戦で仲間が戦死した体験や、徹夜での警備などを生々しく紹介。「無理なことでも

銃撃戦など…生々しく

先輩に従わなければすぐにビンタされた。軍隊はそうして秩序を維持していた」と当時を振り返った。

熱心にメモを取っていた佐塚啓太君(16)は「戦時にどんな生活を送っていたのかよく分かった」と話した。

今年一月に開設された岩井屋は、お年寄り九人と障害者二十一人、幼児二人が利用。東部高の茶華道部生徒が花を生けたりしている。そのつながらりから、学校側が人権教育の講師を依頼した。

東部高は今後、土屋さんに一年生の他の四クラスでも話をしてもらいたい考えた。

岩井屋の施設長、岩井孝司さん(42)は「利用者が地域の学校に出向くことはめったにないので、社会参加のいい機会。生徒さんも気軽に岩井屋に立ち寄ってほしい」と呼び掛けていた。